

# 通常型イメージデータに対する操作

本ソフトにおけるイメージデータはその作成方法により2種類に分類されます。1つは通常型でもう1つはOLE型です。ここでは通常型イメージデータについての操作を解説しています。

## 通常型イメージとは

- ・ビットマップデータを保持しているイメージ要素です。
- ・拡大/縮小/回転して配置する事ができます。
- ・本ソフト自体に編集機能はなく、他のイメージ編集ソフトにて編集します。
- ・1ピクセルあたりのドット数は1(2値モノクロ)または24(TRUEカラー)で、作成時に決定されます。(後で変更することは現状できません。)
- ・PDF保存時の圧縮形式としてFLATEとJPEGの2種類を選択できます。
- ・しきい値を設定することにより、ある色範囲のピクセルを透明にする事ができます。

## 通常型イメージの新規作成

現状は以下の方法で通常型イメージを作成できます。

- 1) エクスプローラよりBMPファイルをドラッグドロップ
- 2) エクスプローラよりJPEGファイルをドラッグドロップ
- 3) クリップボードよりビットマップデータをペースト

ペーストを行う際の拡大/縮小倍率の設定は以前に編集したイメージ要素のプロパティに従いますが、ページに入りきらないサイズの場合は自動的に縮小されます。

クリップボードよりペーストした場合、PDF保存時の圧縮形式を設定する必要があります。(ドラッグドロップの場合はファイル形式より自動的に設定されます。)

図や画面キャプチャなどのイメージについてはFLATE圧縮(JPEG圧縮フラグOFF)、写真などのイメージについてはJPEG圧縮(JPEG圧縮フラグON)に設定します。以下は図と写真をそれぞれの圧縮方法で圧縮した場合の圧縮率を比較しています。

<p>圧縮率は元データに対する圧縮データのサイズ(%)です</p>	<p>図のイメージ</p> <p>■編集時のキーボードポジション</p> <p>※2点を対角として範囲を選択する</p> <p>編集しようとしてクリックした要素が違った場合、次候補を検索する</p> <p>Ctrl+Insでコピー実行 (Ctrl+Cでも可)</p> <p>Shift+Delで初取り実行 (Ctrl+Xでも可)</p> <p>要素のプロパティウインドウ表示中、編集した内容で更新</p> <p>要素の位置を微調整する</p> <p>押しながら左クリックにより、要素を選択し編集状態にする。移動および回転中は、複製および回転複製となります</p> <p>1点目左クリック → 2点目左クリック → F2キーで範囲選択                  1点目左クリック → 2点目左クリック → Ctrl+Insで範囲選択後コピー実行                  1点目左クリック → 2点目左クリック → Shift+Delで範囲選択後初取り実行</p>	<p>写真</p>
<p>FLATE 圧縮の場合</p>	<p>1.8%</p>	<p>73.0%</p>
<p>JPEG 圧縮の場合</p>	<p>10.9%</p>	<p>9.8%</p>

(次ページに続く)

データを見ると明らかで図の場合はF L A T E圧縮，写真の場合はJ P E G圧縮に分があります。よって図と写真が混在するドキュメントでは、この圧縮方式の選択を適切に行う事がファイル容量に大きく作用します。ファイル容量を減らすことは、ネットワークにおいて最も重要な事なのでこれを省力化してはなりません。

ここで注意しなければならないのはJ P E G圧縮が元のデータを復元しない圧縮方式であることです。つまり、J P E G圧縮されたものを読み込んだ場合、保存前のデータとは違うものになります。たとえ写真データであっても細かい編集を行う場合はF L A T E圧縮にしないと編集後の保存の度にデータが変化します。

一般のP D F変換ソフトの場合、ほとんどのソフトは自動的に圧縮方式を判断しますが、常に正しい判断をするソフトは変換が遅く、逆に変換が早いソフトは判断を間違えてファイル容量が大きくなる傾向にあります。こういった判断はやはり人間が一番優れていて、イメージを貼り付けた時に手動で設定するのが一番効率がよいです。

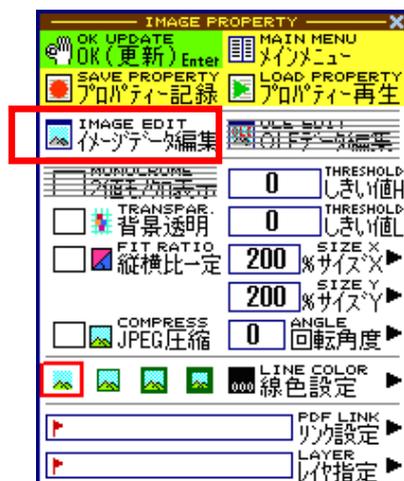
### イメージデータの表示 / 非表示設定

イメージデータの近くに長文の文字列を配置しその文字列を編集すると、画面の更新に時間がかかり、重くなる事があります。この場合、文字列など他の要素を編集する際にイメージの表示をO F Fしておくと、重くなるのを防ぐ事ができます。

この釦または、 IMAGE ON/OFF イメージ表示切換 コマンドにて表示 / 非表示を切り換える



### イメージデータの編集



- 1) イメージ要素プロパティの「イメージデータ編集」を実行することにより、イメージデータがクリップボードにコピーされ、以下のメッセージで待ち状態になります。



- 2) この状態で普段お使いのイメージ編集ソフトにペーストし、イメージを編集します。
- 3) 編集が終わったら出来たイメージ全体をクリップボードにコピーし直します。

- 4 A) クリップボードにコピーしたデータで置き換える場合は更新を実行します。



- 4 B) 編集を破棄したい場合は中止を実行します。

